


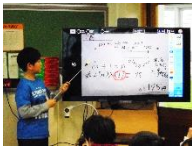
| | | | |
|---|--|---|--|
|  <p>開校明治七年 開校145年目</p> | <h1>宗岡小だより</h1> <p>学校教育目標 自分がすき・友だちがすき・町がすきな宗岡の子</p> <p>育てる子供像 地域を愛し、誇りをもって、地域に貢献する子供</p> | <p>めざす学校像 「安全・安心できれいな学校」 「子供達一人一人の居場所がある学校」</p> <p>10月号 令和元年10月1日 志木市立宗岡小学校 児童数450名・学級数17学級 住所 志木市中宗岡3-1-1 TEL 048-471-0307</p> | <p>10月の生活目標 学習に うちこもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のきまりを守ろう ・自分からすすんで学習に取り組もう |
|---|--|---|--|

神無月 子供達に分かる喜びを実感させる授業づくり 校長 近藤 章宏

本校では算数科の指導方法の研究を進めています。研究主題は「児童一人一人に、確かな学力の向上を図る指導方法の研究」、サブテーマ～児童が分かる喜びを実感する算数科の授業を目指して～です。10月4日（金）には研究の成果を他校の教職員に公開する研究発表会を予定しており、その取組についてお伝えいたします。

新学習指導要領実施に向けて

来年度から全面実施される新学習指導要領では、子供達が学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に必要とされる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが求められています。そのためには引き続き基礎的、基本的な学力の定着を図るとともに、学習の質を一層高める取組を進めていくことが重要です。学び方として今までの我が国の優れた教育実践に見られる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫・改善を推進する必要があります。



指導方法の工夫・改善の取組

授業の様子や、学習評価の結果から宗岡小の児童の実態として以下のような傾向にあると分析しています。【学習意欲、態度】わかると素直に喜びを表現し、意欲が高まる児童が多いが、わからないと早目にあきらめてしまう児童も多い。【思考・表現】抽象的な思考がやや苦手な児童が多く、具体的・体験的な学習活動が必要である。またこのような児童の実態や、日頃から保護者の皆様からの思いを伺う中で、教師の願い、保護者の願いとして次のようなことを考えました。

- ・四則計算など基礎基本を身に付けて、進級させたい。
- ・身に付いていないことを自ら身に付けようと頑張れるようになってほしい。
- ・学んだ内容を活かし、自ら進んで考え、見通しをも

って問題を解決し、その楽しさを感じてほしい。
・学んだ事を生活に活かす態度を身に付けてほしい。

そして、児童の実態と教師・保護者の願いを踏まえ以下の3つの研究仮説に基づいて取組を進めてきました。①授業の展開を工夫し、個に応じた支援により基礎基本の定着を図る。②伝えあいと共助の場面の工夫により、根拠のある考え方をさせるようにする。③導入の工夫により、主体的に問題解決をする態度を養う。



①については複数の教員による指導体制（T.T.）の役割の明確化による授業の導入の工夫や、ヒントカードの活用等による個別の支援の取組があげられます。児童の様々なつまづきに対応することができるようになりました。



②についてはグループ学習での発表ボードの活用や、ペアや3人組での意見交流を意図的に行わせる取組等です。検討の時間を取ることができ、また全体への発表に苦手意識をもつ児童も自分の考え方を説明できるようになりました。



③については授業の導入時に劇化をしたり映像を活用したりすることで学習意欲を高めることができました。また買い物等実生活につながる場面を問題に設定することで課題解決に主体的に取り組むことができるよう工夫しました。学年ごとの算数科の授業での様々な取組は是非子供達から聞いてみてください。

子供達自らが幸せを切り拓いていく力の育成こそ、私達教育に携わる者の責務であると考えます。学力をこのような力と捉えて、基礎学力の定着と維持と共に、さらなる思考力・判断力・表現力の育成を図り、互いに相互作用を持たせながら学びに向かう力や人間性を育めるよう、引き続き取り組んでまいります。